

令和4年度法学部編入学試験【出題の意図】

法学概論

〔第1問〕 本問は、私法上の法律関係の規律について、私人間での合意が尊重されるのはなぜかを明らかにしたうえで、消費者や労働者といった弱者と企業との間の紛争のように、当事者間の合意を尊重するだけでは適当な規律が実現できない場合などを念頭におきつつ、私的自治原則の限界について検討することを求める問題である。

〔第2問〕 本問は、悪性の高い不法行為の被害者が、加害者に対して、実際に生じた損害の賠償だけでなく、制裁的ないし懲罰的な損害賠償の支払いを求めうるという考え方が主張されるのはなぜか、それが民事法と刑事法の峻別という近代法の原則とどう抵触し、賠償額の高額化に伴ってどのような問題が生じうるか、といった点について検討することを求める問題である。

一般教養

現代の法学・政治学における重要問題となりつつある気候変動問題を素材として、受験者の基本的知識、学術的文章読解力、学術的表現力の側面から、法学部専門課程での受験者の学習能力を問うたものである。